

電気自動車やハイテク製品に不可欠なレアメタル（希少金属）の高騰が収まらない。中国の生産・輸出抑制を震源地とする相場上昇はいつまで続くのか。レアメタル専門商社、アドバンストメテリアルジャパン（東京・港）の中村繁夫社長に現状と展望を聞いた。

——レアメタルの一種であるレアアース（希土類）の高騰が続いている。

「中国が政策的に価格引き上げを主導し、1年前の10倍以上に跳ね上がった品目もある。回国では需要が急増しており、国内にも不

レアメタル 市況を読む

アドバンストメテリアルジャパン社長 中村 繁夫氏



見込めない。高値は続くだろう。太平洋の海底で発見された鉱床からの生産には期待していない」

——レアアース以外でも

中国、生産抑制で一段高も

足感が出ている。中国の生産者と日本の需要家による我慢比べは、日中資源摩擦とも呼ぶべき状況だ」

「磁石の耐熱性を高めるのに使うジスプロシウムは中国以外からの生産を当面

早々に500gを超えるのは確実だ。アンチモニーとともに第2のレアアースになるかもしれない」

「合成樹脂を燃えにくくするアンチモニーは一進一退が続く。5月につけた過去最高値まで再上昇する可

「レアアース全般でみると市況の先行きは弱いとみられる。需要家の間では使用量削減に加え、中国に工場を移転して輸入を減らす動きが出てきた。研磨材や自動車用触媒に使うセリウム、光学ガラスに使うランタンは生産者が在庫が滞留している」とされる」

「生産者が在庫放出に動けば年末に向けて輸出価格が下がる可能性はある。日本企業は胸突き八丁の局面を越えたのではないか」

——中国以外の国で生産が拡大すればレアメタル価格が下がるのか。

「レアメタルは採掘や分離・精製のコストがかかる割に市場規模が小さく、採算が合いにくい。民間企業だけで事業化できるケースは少ない。メーカーは汎用的な工程を国外に移すことなどで調達リスクを減らすべきだ。国も資源確保の指針を示す必要がある」

「当社はタンングステンをロシアから購入し、ベトナムなど東南アジアでも開発プロジェクトへの参画を検討している。日本の産業界が安定調達できる体制づくりの一助になると自負している」

（随時掲載）